

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月31日

事業所名 まいるーむ放課後こども教室貝塚校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		荷物や絵本、玩具などの置き場所を活動スペースと分離し、スペースの確保を行っている	より活動がしやすく、安全面に配慮した空間作りのために危険要素の確認を行う
	2	職員の配置数は適切である		○		急病などによる欠勤があった際に対応ができるように人員の補充を検討
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		階段や段差が多くある為バリアフリー化は進められていない為、適切な配慮、スロープ化などの配慮が必要
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		チーフからの発言だけでなく、スタッフの意見を聞き取り、必要なものや効果が見込まれそうなものは積極的に取り入れ、振り返りを行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表だけでなく、送迎時やモニタリングなど生の声を大切にしている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			これまでの支援方法や支援内容、慣れたものにと変わらず、新しい情報や、知識の吸収を積極的に行う
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者の意見と本人の意思、施設側の意見を踏まえ、偏りの内容計画をしている	これまで以上に本人の意志や今後に向けて必要になる要素を考慮した計画立案が必要
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		SM社会能力検査の実施	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当を決めているが、他のスタッフからの意見を積極的に取り入れ、現状と将来的に必要とされる項目に沿った内容を組んでいる	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			土台や基礎は丁寧な活動に取り入れつつ、新しい取り組みや刺激になるものは
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別の取り組みを行う際に集団での関りが必要な活動の作成を意識している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の利用者の注意すべき点や、気になる最近の様子などを共有している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日の利用者の注意すべき点や、気になる最近の様子などを共有し、次回の利用や進学就職に向けての懸念点等を話合っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		スタッフが個々に感じていることを利用児別に一カ所に記載し、翌利用の際に役立てられるようにしている	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		日頃の様子なども踏まえた計画の作成をしている		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		施設代表が参加しているが、より意義のある会にするため、会議前はスタッフとの情報の共有を必ず行っている	必要であれば施設代表ではなく、他のスタッフの参加も行う
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		通院している病院の主治医と連絡を取ることがある	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		地域参加や交流、子どもたちにとって新たな刺激という点でも実施していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話連絡時など細かく話を聞けるように注意している	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の需要があれば適宜話ができるように意識している	回答できない内容や、知識・経験などが不足している場合は迅速に対応が行えるようスタッフのスキルアップを行う
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者同士の交流を求めている家庭については無理強いせず、必要な情報の交換、相談などができる時間や場所の提供を行う
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSにて情報の発信を行っている	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		活動内容として、地域参加の活動が難しいことが多いが、実施の検討は必要

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		定期的な避難訓練の実施	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的な避難訓練の実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			